

福井照さん用番組質問集

時間の関係ですべての質問に回答いただいたわけではありません。4つの表題に10程度の質問をかまいました。それなりに興味深いテーマではないでしょうか。

収録したテープを聞き返してブログに近日中にアップいたします。

あるべき高知の観光とは？

今月の「けんちゃんの今すぐ実行まちづくり」のゲストは衆議院議員の福井照さんです。福井さんは元建設省(国土交通省)に勤務され都市問題に大変詳しい人です。取り付きにくいと市民には敷居の高い都市計画問題や、まちづくり問題をわかりやすくお話いただけると思います。

今日のテーマは「あるべき高知の観光とは？」でお話をお聞きします。

1) 福井さんは観光についてご自身のホームページの中でこう述べられています。

「観」とは、易経・お経から来た言葉です。他国の王様を賓(案内)するときに使われた言葉で、観光の「観」は単に目で見ることではなく、心をもって深く内面まで見つめること。つまり「観光」とは、国の光を見ること、人々の顔が輝くことを見ることです。」とされています。

具体的にはどういうことなのでしょう？沖縄や北海道は「観光地」というイメージが沸きますが高知は正直「観光地」ではないのではないのでしょうか？

桂浜は5分で飽きますし、あそこに高知城があり、龍河洞(りゅうがどう)でもあれば少しは観光地と言えますが。

易経・お経から来た言葉からすれば高知は全然観光地ではないように思いますがいかがでしょうか？

2) 観光産業は地元仕入れ率が高いと言われています。県外からの観光客が増加すればホテルが潤い、タクシーやバス会社も潤い、みやげ物としてお菓子や農産物や海産物なども販売量が増えます。まさに地場産業であると思います。

現在高知県の観光客は500万人前後だと言われています。これを倍の1000万人に

すれば県民皆ハッピーになると思います。なにかアイデアなり方策はありますか？

また成功事例などあればご紹介ください。

3) 以前福井さんは「小樽運河も道路特定財源でこしらえたものです。」と言われていました。高知市におきましては新堀川と言う歴史的な運河を道路特定財源で建設されている県道はりまや橋一宮（いっく）線は、蓋をし、道路にしています。

中江兆民の生家や儒学者岡本寧穂や武市半平太の道場跡も新堀川周辺に残されています。またアカメの幼魚や絶滅危惧種のカニであるシオマネキも生息している高知市中心部のビオトープであり、ウォーターフロントでもありました。

新堀川などは貴重な観光資源になる可能性があるのですが、どうも道路特定財源とはかみ合わないようでしたが。そのあたりはどう思われますか？

4) 福井さんは日本中や世界の事例に詳しいと思います。「観光」を活用したまちづくりで高知に参考になる事例はありますか？

5) 坂本龍馬は活用できるのでしょうか？全国各地や欧州にも「竜馬会」というものが発足しています。龍馬を観光資源としてかつようすることについてはどう思われますか？

6) よさこい祭りについて。今や50年の伝統を持つ高知のブランドになっています。8月に東京原宿で「スーパーよさこい」も開催されているようですし。

よさこい踊の「メッカである高知」ということで観光客の増加ということとはできないのでしょうか？

よさこい踊子隊を「プロ化」することなども必要ではないでしょうか？プロの踊り子を全国に派遣する。そうすると全国大会が高知であるから高知へいこうということになりますし。

7) 福井さんはホームページのなかで「国の予算で観光事業が出来る。釧路湿原での河川改修を自然再生事業として環境省と国土交通省がやっています。100%国の予算で学習センターや宿泊施設、水族館の建設ができる。」と言われていました。

高知県にそのような「適地」はあるのでしょうか？

8) 中国や台湾、韓国の観光客はパワフルです。高知へ誘導する方策はないのでしょうか？沖縄のリゾートホテルは台湾の観光客で潤っているようにも思えました。

アジアからの観光客を高知へ引きこむ「観光資源」についてお聞かせください。

以前出演された「市民がつくる防災フォーラム」では「防災先進国の日本の取り組み。例

えば津波タワーだとかは観光資源にすれば良い。」とも言われていましたが。

9) 日本で1番軌道が長いと言われている路面電車を運行している土佐電鉄ですが、高知の観光資源としての活用法などがありますか？日本では「路面電車博物館」がないようです。高知に路面電車博物館が出来ますと全国から愛好者が集ると思います。

10) まんがは高知の観光資源にはならないのでしょうか？

高校生の「まんが甲子園」もじわじわ有名になってきました。高知は多くのまんが家を輩出しています。まんがを観光に活用する方策はありますか？

あるべき都市の姿について

今月の「けんちゃんの今すぐ実行まちづくり」のゲストは衆議院議員の福井照さんです。福井さんは元建設省に勤務され都市問題に大変詳しい人です。取り付きにくいと市民には敷居の高い都市計画問題や、まちづくり問題をわかりやすくお話いただけると思います。

今日のテーマは「あるべき都市の姿」についてお話を伺います。

1) 高知市などの地方都市は、中心市街地が郊外型ショッピングモールの登場により衰退し、活力がなくなってきました。映画館すらない状況です。

福井さんは以前英国も同様の状況であったが、郊外への出店を規制し、中心市街地と提携して出店するようになってから共存して繁栄していると言われました。

それはいわゆる「まちづくり三法」が促しているのでしょうか？高松市丸亀商店街の再開発ビルなどは成功事例と呼ばれるものなのでしょうか？

2) 高知県や高知市には「都市計画不在」のように思われます。あるのは街路整備計画だけのようにも思います。

都市計画とはどのようなものなのでしょうか？マスタープランにおいても高知では市民参加が保証されず短期間で決める傾向があります。市民参加と情報開示が中途半端です。

高知のモデルとなる都市はどこでしょうか？またその都市からどのようなことを学べば良いのでしょうか？

3) TMO(中心市街地活性化法) というものがありました。高知では活用されたのでしょうか? 商工会議所がごちゃごちゃしていましたが、なんだかわからないうちに下火になったようでしたが。本来の意味は地主の利益を保証する、投資を盛んにする誘導策ではなかったのでしょうか?

4) 高知大学を中心街へ誘導する。高知女子大は池へ統合する。追手前小学校は廃校にして新堀小と統合、跡地を商業地にするなどお互い連携のないちぐはぐな都市再生プランが乱立しています。

お立場上お答えできにくいテーマかも知れませんが、おかまいない範囲でそのあたりをどのように整理し、考えれば良いのは。お話しください。

5) 高知駅周辺の連続立体交差事業が完成しました。高知市で懸案の南北自動車でも渋滞緩和になりました。ただますますイオンモールを中心とする北部環状線沿いが発展、その他の市街地や商店街は衰退しています。愛宕商店街は「通路」になりました。

今や高知市の中心商店街はイオンモール周辺になりました。

私見ですがイオン高知城近辺まで巡回させる。イオンの隣の県所有地を交通ターミナルと駐車場にしてパークアンド・ライドにすればいいのではないのでしょうか。

例えば市役所か県庁が高知駅前に移転します。跡地に文化施設を集約します。ショッピングの跡地には高齢者ケアマンションを建設誘致します。介護は労働集約型産業だから若者が高知市中心街へ集ると思いますが。

6) 高知市の現在の中心市街地を高齢者にやさしいまち、ユニバーサルなまちに改造するためにはどのような施策が必要なのでしょうか?

県や市の役割。県民としての役割があればアドバイスをお願いします。

7) 福井さんがお気に入りの都市はどこでしょうか?

またその都市はどんなところが良いのでしょうか?

高知がその都市に近づくためには何をすれば良いのでしょうか?

8) 高知市は「環境都市宣言」にエントリーをしたようです。採択される可能性はあるのでしょうか?、また採択された場合の得点はどのようなところなんでしょうか?

9) 富山市などは路面電車を活用したまちづくりを行っているようです。高知でも可能であると思います。日本では路面電車が稼働している都市は数少ないので環境対策にもなる

と思います。

路面電車の活用は「排出権取引」にはならないのでしょうか？

10) 高知市の適性人口規模はどれくらいでしょうか？

昔都市の「成長管理」なども言われてましたが、今でもその理論は有効なのでしょうか？

11) 福井さんは北山孝雄さん(北山創造研究所所長)とも対談されています。風水とか面白いことやらんと都市は面白くないと言われていています。

高知も掛川から山内氏が来てこしられたまちがベースになっています。うまくそのあたりは機能しているのでしょうか？

国の施策の最大活用法とは？

今月の「けんちゃんの今すぐ実行まちづくり」のゲストは衆議院議員の福井照さんです。福井さんは元建設省に勤務され都市問題に大変詳しい人です。取り付きにくいと市民には敷居の高い都市計画問題や、まちづくり問題をわかりやすくお話いただけたと思います。

今日のテーマは「国の施策の最大活用法とは？」でお話をお聞きしたいと思います。

1) 福井さんは国の施策を活用して地域の振興を図る。それには知恵がいるのではないかと思います。低迷する高知県の地域経済。

とりあえず活用できそうな国の施策はいくつかあるのでしょうか？

2) 過去に福井さんが提唱し、高知のために活用された国の施策はあるのでしょうか？ 高知駅周辺連続立体交差事業などもその1つなののでしょうか？

確か一度は鉄道高架事業は取りやめに成った経緯が復活されました。

また高知駅前に関連した事業で高知市はどのように都市改造すべきなのでしょうか？

3) 私見ですが最近の国は「迷惑施設」を地方に押し付ける場合は多額の交付金を出す、反対すれば出さないという露骨で強引なやり方が目立つように思います。東洋町への高レベル放射性廃棄物問題や岩国市への米軍艦載機の移転問題など。

こういう問題では意見が異なるかもしれませんがこのあたりの見解をお聞かせ下さい。

4) 先日NHKの番組でも放映されていました。約6万ある日本の橋のうち1割に当たる約6000橋が即維持管理作業をしないと危険であるとのレポートには驚きました。

現在日本の仕組みでは、道路や橋の新設には国の補助が半分あり、残り半分に関しても

うち半分は地方債の発行が認められています。

維持管理の場合は100%地方自治体負担であり、財政力の弱い高知県などでは道路や橋の維持管理が十分にできない可能性があります。維持管理を促進するような国の施策はあるのでしょうか？

5) 海拔0メートル地域の私が居住する下知地域では電柱地中化工事(共同埋設管工事)が国土交通省の工事でされていました。

むしろこの地域は地盤が弱く、浸水する危険性が高い地域です。耐震性のある津波避難ビル機能のある公共建築物や、昭和40年代に建設された高潮堤防が劣化しています。

地域住民の危機意識が国の事業に反映されないように感じています。このあたりはどのようにすれば良いのでしょうか？

6) 塩野七生・著「ローマ人の物語」を読んだことがあります。ローマ帝国は本国の施設を属州の都市にもこしらえています。道路網、水道、橋、劇場、浴場、競技場、などです。

また維持管理もきちんとしていたようで500年ぐらいは施設は保全されていたようです。税制や社会制度の違いは当然あるでしょうが、参考になるのではないのでしょうか？

7) 福井さんは後期高齢者医療制度の説明に「姥捨て山」の真の意味をお話されていました。

「年寄りが60歳を超えたら領主の命令で山へ隔離する命令がある領地でありました。

息子が母親を背負い山道を歩いていました。母親は白い切れを道に落としたり、木の枝を追ったりしていました。

息子は母親が自分達のところへ戻るためにしているのかと問いました。母親はこう言いました。「お前が帰り道を迷わない為にそうしているんだと。」息子は己の行為を反省し母親を連れ戻し、家の床の下に隠して生活していました。

あるとき隣国が攻めてきました。隣国の領主はなぞなぞが好きな人で3つ難問を出しました。なぞに回答すれば攻めるのはやめようと言う条件。国中の識者も領民も回答できませんでした。

息子は隠れている母親にその話をしますといとも簡単にその謎の回答を見つけ出しました。急いで息子は領主に進言しました。そのおかげで隣国の侵略を免れました。

領主は息子に「誰もとけなかったなぞがそうしてお前がわかったのか？」と問いました。息子は実は領主様の命令で口減らしのため母親を姥捨て山へ連れて行きましたが思いどまり、家に隠していました。どうか許してください。なぞは母親が回答したのです。と言いました。

領主は改心し姥捨て山政策を放棄しました。年寄りの知恵が国難を救ったのですから。」というのが「姥捨て山」の話の真相であると」

8) 高知は大きな川があり国直轄のダムもあります。森林の間伐をした折に発生する林地残材をチップ化し、木質ペレット化しますと「木質バイオマス地域循環システム」がダムで展開することが可能です。

熱源と電気も起こせ、エネルギーの地産地消と環境対策、排出権取引の対象となりダム上流域の人たちにとり仕事を生むしくみになりえます。ダムは迷惑施設から利便施設へ転換できます。

早明浦ダムや大渡ダム、中筋川ダムなどに可能性があると思いますがいかがでしょうか？（木質バイオマス地域循環システムについては別紙参考）

国の直轄のダムで木質バイオマス地域循環システムが稼動すれば山間部は元気になるとと思いますがいかがでしょうか？

9) 国の補助はだいたい50%で、後は地元自治体負担です。高知県の場合地方自治体が弱っているので補助すら受けられない状態になりつつあるのではないのでしょうか？

地元を「元気にする」方策は国のメニューで「高知の特性を生かし使えそうだ」というものがありましたらご紹介いただけないでしょうか。

10) 高知市種崎地区に建設されるという津波タワーは国の防災対策事業のモデルなのではないでしょうか？将来下知や潮江地区などにも建設できないのでしょうか？

心の自由民権一人生主義とは？

今月の「けんちゃんの今すぐ実行まちづくり」のゲストは衆議院議員の福井照さんです。福井さんは元建設省に勤務され都市問題に大変詳しい人です。取り付きにくいと市民には敷居の高い都市計画問題や、まちづくり問題をわかりやすくお話いただけるとと思います。

今日のテーマは「心の自由民権一人生主義とは？」でお話をお聞きます。

1) 福井さんはホームページのなかで「好きな時に子育てができ」「好きな時に親の介護ができる」「またなによりも大切な事、即ち自分の心のケアも好きな時にできる」、自分の人生を設計どおり生きることができる、そんな人生を支援することを本意とした社会を創らなければならないと思っています。」

そのためには

「今必要なのは枝葉のような個別の政策ではなく、より上位概念であり、個別の政策をコントロールする領域、即ち人間のあり方を根本から見つめ直すベーシックポリシー、或いはスーパーポリシーといってもいい領域であると考えます。

今の日本からこの分野がすっかり抜け落ちてしまっているからこそ、政治不信はむしろのこと現代人の根源的な不安、不満に立ち向かうことができないでいるのです。」と言われています。哲学のようですが、今一度解説をお願いします。

2) 同じような質問です。国政の報告などでは「これこれの道路をこしらえました。どこどこの地域に国の交付金を取り付けました。」という「成果を誇示する」説明があるのが普通なのですが、福井さんの場合は「心構え」を県民に説いておられます。

それは経済活動にも品性が必要であり、哲学が必要であるからなののでしょうか？

聴衆は「凍りついて」いたようですが理解は深まりつつあるのでしょうか？

3) 最近の投機筋の生活関連物資である石油や穀物資源への投機は「度が過ぎている」ようにも思えます。経済活動にも倫理観や節度が必要であり、経営者にも品性が必要であるということなののでしょうか？

よく「住民が主人公」と言われています。福井さんの提唱されている「心の自由民権一人主義」は主人公である住民の心構えとポリシーが1番大事であることを強調されているのでしょうか？

4) 福井さんは「私の政治信条」のなかで「ユーパーポリテック」=超政治、次世代のための政治。哲学・思想・歴史観・宗教性・時代認識・長期展望を備えた政治と言われています。

それはグローバルな観点から、ローカルのことを考えることなののでしょうか？

昔石橋湛山という政治家がいましたが、宗教家であり、エコノミストであり、「小日本主義」という大局観がありました。植民地主義を放棄しアジアの国々と共存して反映する展望をきちんと持っていました。

自由民権運動の先駆者を先祖に持つ高知県民は「ないものねだり」をせず高貴な目的を持って活動をしようよということなののでしょうか？

5) 福井さんの政治信条は、最近の政府が唱えている「愛国心教育の重要性」とは異なっているように思います。そのあたりはどのように考えられているのでしょうか？

6) 2000年以降日本の自殺者は3万人を越えています。少子高齢化社会で人口減少になっている日本で自殺者の数が減らないのはなぜなのでしょう？

小泉内閣の構造改革により「格差社会」がより大きくなったからなのではないのでしょうか？

7) 市民の生活実感と政治のリーダーとの感覚がなかなか一致しないようです。その原因はなんであると福井さんは考えられますか？

福井さんは「幸せとは何か、人生とは何か、心とは何かを青っぽく真剣に議論することこそ今、国民が飢餓感をもって求めていることなのです。」と言われています。

そのあたりを説明いただけないのでしょうか？

8) 2000年から日本を席卷した「新自由主義」「市場原理主義」は、結果的に日本を格差社会にただけではないのでしょうか？

その間に勤労者の所得は10兆円減少し、大企業の経営者と株主は8兆円所得が増加したと言われています。

若者達がなかなか就職できず、雇用形態も不安定なゆえに社会不安が増しているのではないのでしょうか？

福井さんがモデルとしている世界は歴史上ありましたか？

塩野七生さんが言われているローマ帝国などはモデルではないのでしょうか？

9) 福井さんは「公共性」というものをどのように考えますか？

最近に日本は「採算が合わないとどんどん切り捨てて」います。地方公共交通などもそうできて、車を活用できない交通弱者にしわ寄せしています。「福祉」の概念と公共交通は結びつかないのでしょうか？

10) ユニバーサルな社会の実現は可能なのでしょうか？そのためには市民1人1人が差別も偏見ももたないユニバーサルな考え方にならないと実現しないのではないのでしょうか？

そのあたりはどのようにお考えになるのでしょうか？